

# 『オミクロン株』への対応について

## 1 趣旨

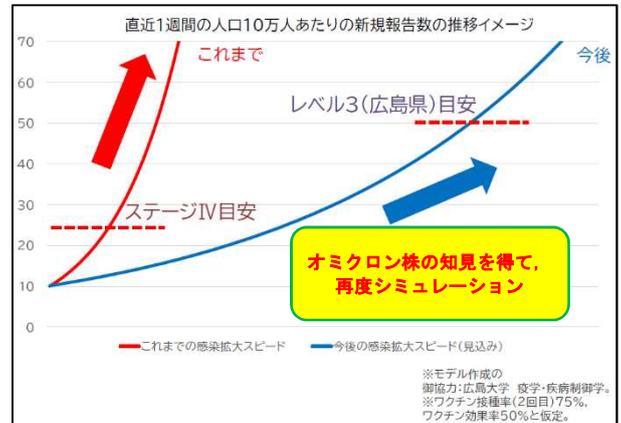
オミクロン株による感染の急拡大に備え、予め取り得る対応（対策）等を明確にする。

## 2 対応

### (1) 情報収集

オミクロン株の感染力や感染エリア，ワクチンの有効性など，その特徴を把握する。  
 ⇒情報（感染力等の従来株比較）に基づいて，シミュレーションの精度を高める。  
 [結果によっては，本県シミュレーションによる病床使用率などの予測を改め，より早期のレベル移行・対策を検討]

[12/1 本部員会議 資料3 (一部追記)]



### (2) 保健医療体制

#### ① 【変異株に係る検査】

- ✓ L452R\*変異スクリーニング検査を実施。⇒「陰性」は，オミクロン株を疑う。  
 ※L452R…デルタ株等で確認される変異で，オミクロン株にその変異は無い。  
 (注) 今後，国立感染症研究所がスクリーニング検査手法を確立し次第，変更する。
- ✓ 「陰性」の検体を，迅速にゲノム解析し，オミクロン株か否かを確定させる。

#### ② 【医療体制】

区分	対応	施設
オミクロン株の陽性者	入院（個室管理）	感染症指定医療機関
	○「L452R 変異スクリーニング検査で陰性」の段階で，オミクロン株疑いとして，指定病院への入院に切り替え，陰圧室で対応する。	
オミクロン株の濃厚接触者	ホテル滞在を強く勧める	宿泊療養施設（濃厚接触者専用）
	○期間は，陽性者との接触から14日間。 ○期間中は2日に1回PCR検査。（陽性判明後は上記入院に切替） ※止むを得ず自宅療養の場合も，健康観察と2日に1回のPCR検査。	

※過去14日以内に海外渡航歴がある陽性者は，速やかに指定病院に入院。

#### ③ 【積極的疫学調査】

- ✓さらなる科学的知見が得られるまでの間は，従前の濃厚接触者の範囲を拡大して，積極的疫学調査を行う。（国の適用例：同一航空機同乗者全員が濃厚接触者）

#### ④ 【PCR検査】

- ✓県内でオミクロン株の感染例が確認された場合は，市中感染への拡大を警戒し，事業所PCR等の検査体制を強化する。